

受 付	一 般 質 問 第 号 令和 年 月 日 時 分
--------	-----------------------------

一 般 質 問 < 個 人 > 発 言 通 告 書

令和8年8月24日

長久手市議会議長 殿

長久手市議会議員 田崎あきひさ

会議規則第59条第2項の規定により下記のとおり通告します。

	質 問 事 項 及 び 要 旨	備 考
1	令和7年度決算を踏まえた持続可能な財政運営について 令和7年度決算を踏まえ、本市財政の現在地と今後の持続可能性について問う。 (1) 本市が普通交付税の不交付団体であることに伴い、令和7年度決算及び令和8年度予算において受けている財政上の影響額を問う。 (2) ふるさと納税収支の推移の評価と改善目標を問う。 (3) 市長就任以来の地方債残高及び基金残高の推移をどのように評価しているか。また、公共施設の更新・大規模修繕等に必要な財源を今後どのように確保するのか。	
2	令和7年度決算審査意見書を踏まえた行財政運営・内部統制について 令和7年度決算審査意見書では、予算執行、入札契約、行政改革の情報公開など、複数分野にわたる事務執行上の課題が指摘されている。令和8年6月議会で市長自らが事務処理ミスを「構造的課題」と認めたことも踏まえ、組織としての改善策を問う。 (1) 行政改革について、取組状況や成果が市ホームページから十分把握できないと監査委員から指摘を受けた。市長は指摘をどのように受け止め、「見える化」「届く化」を進めるか問う。	

	(2) 予算流用について、令和7年度決算での不用額14億7,342万円（前年度比+2億4,368万円）の発生について、今後の予算編成・執行管理の精度向上をどう市民へ説明するのか問う。 (3) 決算審査意見書で「入札参加者間の公平性、透明性及び競争性を損なう」と厳しく指摘された入札契約手続（資格要件を満たさない者が配置されたまま契約が履行された事例や契約約款の適用誤り）について、市長の受け止めと、再発防止策を問う。 (4) 職員の時間外勤務が令和7年度に増加に転じ、一部の部署で長時間勤務の恒常化や特定の職員への集中が見られたとの監査委員の指摘を踏まえ、令和8年6月議会で市長が「構造的課題」と認めた事務処理ミスの防止を含め、持続可能な組織体制をどのように構築するか。また、DXの活用状況と成果についても問う。	
3	財政制約下における佐藤市長の政策判断について 「見える」「届く」「変わる」を掲げて当選した佐藤市長へ、まちづくりビジョンの考えと施政方針等を問う。 (1) 令和9年度は歳出超過はないものの、令和10年度は約2億4,000万円、令和11年度は約4億4,000万円、令和12年度は約6億6,000万円の歳出超過が見込まれているが、令和7年度決算を経て財政見通しに修正はあるか。また、市長自ら「実態に合わなくなっている」とした中期・長期財政計画をどのように見直し、第7次総合計画に財源の裏付けを持たせるのか。 (2) 佐藤市長は財政面を理由に主にハード面の公約が未達であるが、ここにきて事業費35億円のスポーツの杜再整備を提案している。再整備を進める判断基準と財源、事業化の考え方を問う。	
4	市政課題の進捗について (1) 小中学校の「いじめ相談SOS窓口」の利用実績と課題をどう評価しているか。また、いじめ・不登校・子どもの権利に関する総合相談窓口の設置について、進展しているか。 (2) 中日ドラゴンズ2軍誘致について令和8年6月議会において、6月16日に「今内部で検討に入っているところでございます。」と答弁していたが、その後の検討経過、応募・エントリーに至らなかった理由を問う。	

	(3) 大学等との連携・交流拠点を設置することについては、大学との協議を進めていくとしていた。日進市では実際に稼働し始めた。本市の進捗状況を問う。 (4) 長久手市景観条例に基づく「景観まちづくりサポーター」制度について、制度開始以降の登録者数の推移と活動実績を問う。 (5) 古戦場公園の排水柵について、子どもが内部に入ることができる状態となっているが、安全対策を講じる考えはあるか。	
--	--	--